

長野県

民俗の会通信

第308号

盃状穴考

はじめに

表題を「盃状穴」としたが、盃状穴という呼び方を聞き取りで聞いたことはない。呼び名がないため、世間で言われている盃状穴を採用した。盃状の窪みを「盃状穴」と称して伝えたのは、国分直一氏監修の『盃状穴考』(1)からだろう。山口県神田山第一号石棺で盃状の窪みが発見されたのが昭和五五年。それら石棺の盃状穴に関する論文を中心に編集された前掲著は、平成二年に刊行されている。

以後全国に盃状穴の事例が知られるようになったが、本報告をしようとウェブ上で検索していると、盃状穴調査ネットワークというものが結成されて第一回シンポジウムが令和六年一〇月二七日に



写真1 甲斐市寺平丸石道祖神の盃状穴

三石稔

○盃状穴考

三石 稔

○長野県松本市城山附近の山姥―里山に点在する山姥の地と山の神―

小原 稔

○書誌紹介 浅野久枝著『越境する歌舞伎―戦前・戦後の小芝居と女役者』

巻山 圭一

山梨大学甲府キャンパスで開催されたことを知った。にわかに「盃状穴」がクローズアップされているよう。丸石神と盃状穴との関係は、すでに前掲書の中で三浦孝一氏によって指摘されており(2)、「丸石を祀る風習地とその現場とが、盃状穴と重なり合う現象が判明し来つつある」と述べている。本年二月一五日、甲斐市寺平の道祖神祭りを訪れたが、ここの道祖神は丸石神であり、台石上にいくつもの丸石が載せられていて、その台石にはいくつもの盃状穴があった。もとは現在地より東の辻に祀られていたといい、その際は丸石が盛り上げられるように置かれていたという。そして台石にある盃状穴に丸石が置かれていたとも。ようは丸石を安定させるように窪みが付けられていたようで、丸石神の多い山梨県では、盃状穴が多いのである。

長野県民俗の会第二二八回例会(令和三年二月一八日)は伊那市で行われ、伊那市内の自然石道祖神を訪問した。その際に伊那市上新田の道祖神を見て「これは何?」と話題

になったのが「盃状穴」であった。その「道祖神」文字碑には年銘はないものの、それほど古い時代のものではない。その道祖神の碑石頂部に盃状の窪みがいくつか見られるのである。この道祖神の存在は以前から確認していたが、あらためて例会参加者から指摘されて筆者も気がついたわけである。あらためて見てみると、周囲の石仏のいくつかにこの盃状穴が見られる。もちろん自然なものではなく、意図的に窪みがつけられたもの。筆者にはこの窪みの意味がわかっていたので、「かつて子どもたちが草を突いてできたもの」と紹介したのだが、具体的にどのようなすればこのような盃状穴ができあがるのか、自ら草をつついて窪ませた経験がなかったので、説明に躊躇したわけである。

盃状穴について「ウィキペディア」には、「岩石や石の構造物等に彫られている盃状の穴の事」とあり、「世界中で見られ、再生や不滅のシンボルとして信仰されてきた。女性シンボルと関係があるとされ、現在でも病気の治癒や子宝に恵まれる事を願って信仰されている。ペッキングという方法で彫られたもので、蟻地獄のような形をしており、幅は三、四センチから一〇センチある。穴の少ない石

長野県民俗の会通信三〇八号

二〇二五年七月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一三六八五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>